

報道各位

日本歯磨工業会ビジョン制定について

日本歯磨工業会（会長 濱田和生）は、このたび、当工業会の社会的役割、なりたい姿を示す「日本歯磨工業会ビジョン」を制定いたします。

近年、健康寿命と平均寿命との差、医療費の拡大による医療保険制度の危機、「オーラルフレイル」概念の登場などオーラルケア業界をとりまく環境は、大きく変化しています。そして、当工業会には、オーラルケアから全身の健康への貢献が期待されています。

当工業会は、2021年、設立50周年を迎えます。この大きな節目に向けて、工業会の使命およびビジョンを明確にし、お口の健康から国民の健康に貢献する工業会を目指してまいります。

日本歯磨工業会の「使命」および「ビジョン」

【使命】（我々は誰のために何をする目的で存在するのか）

日本歯磨工業会は、歯と口の健康を通じて、人々の快適な生活の実現と健康寿命の延伸に貢献します。

【ビジョン】（使命を果たす為にどんな存在となるのか）

- ① オーラルケア情報と手段を提案する、最も身近な存在
- ② 口腔セルフケアの新たな可能性を開拓・提案する存在
- ③ 世界の口腔衛生の発展に貢献する存在
- ④ 行政、業界諸団体と協働し、健康づくりに貢献する存在
- ⑤ 快適な生活を支えるために、環境に配慮する存在

『日本歯磨工業会ビジョン』制定の背景

■健康寿命延伸と平均寿命との差の縮小

「2016年簡易生命表*」によると、日本人の平均寿命は、男性80.98歳、女性87.14歳と、いずれも過去最高を記録しています。一方で、平均寿命と健康寿命の差は、男性が8.84年、女性が12.35年と、依然として長い状態が続いています。「健康日本21」においても、健康寿命の延伸と健康格差の縮小が求められています。

*厚生労働省（発表）資料

■少子高齢化による医療保険制度の危機

わが国の医療費は、2015年に40兆円を突破しました。2016年現在、総額41.3兆円と、依然として高い水準で推移しています。少子高齢化による現役世代の負担増は社会問題化してきており、自らの健康を自らで守る「セルフメディケーション」の重要性がますます増大しています。

口腔の健康は全身健康につながることから、オーラルケアから全身健康を実現することで、医療保険制度の維持への貢献が期待されます。

■「オーラルフレイル」の概念

「オーラルフレイル」は、滑舌低下、食べこぼし、わずかなむせ、かめない食品が増えるなど、ほんの些細な口腔機能の低下が、栄養の低下、体力の低下を招き、全身の虚弱（フレイル）につながるという概念です。些細な口腔機能の低下を見逃さず、定期的な歯科受診によるメンテナンス、入れ歯などで失った歯を補いかめる口を維持すること、口腔機能向上のトレーニングなど、早めの対処がオーラルフレイル予防につながります。

80歳で20本以上の歯を保ち、何でもかんで食べられることを目指す「8020運動」とあわせて推進することで、お口の健康維持を基点とした健康長寿のサポートが可能になると考えられています。

以上

本件のお問い合わせ先： 日本歯磨工業会 岩崎 哲也 TEL 03（3249）2511